

感動と笑顔をありがとう…そして次のステージへ。

interview



日本パラサイクリング連盟専務理事・パラサイクリング元日本代表監督

けんじょう たい し
権丈 泰巳

大会を終えて

平成27年(2015年)から山陽小野田市の山陽オートレース場を練習場として提供していただき、今回のパラリンピックが2大会目となりました。これまでに13回のキャンプを実施し、期間中には市民のみなさんとの様々な交流事業にも参加させていただき、たくさんの応援をありがとうございました。今大会の結果を見ると、私たちが目標としていた全員入賞とメダル獲得を達成することができ、特にメダルに関しては、1番いい色を2つ獲得できたということで、120%大満足の結果となりました。これも、山陽小野田市と山陽オートレース場のご支援がチームの力を引き上げてくれたとともに、市民のみなさんのたくさんの応援のおかげであると大変感謝しています。今後も、選手の育成や環境の整備など、さらなる努力を重ねてまいりますので、引き続き応援をよろしくお願いします。



権丈監督(右)とチームのみなさん

これからの抱負

今年は私がパラサイクリングに出会って30年目。また、パラサイクリング連盟を法人化して10周年の節目の年となりました。私は10月をもって監督を退任しましたが、今後もパラサイクリングの強い選手がどんどん生まれていくよう、環境づくりをしていきたいと思っています。また、パラスポーツというと、どうしても特別な存在のような気がしている人は多いと思いますが、もっと身近に感じていただけるよう、自分自身活動をしていきたいと思っています。自転車に乗るということは身近なことだと思うので、自分ごととして障がい者に接してもらえると、もっと過ごしやすいまちになるのでは、と思っています。今後はまちづくりや障がい者との関わり方を通して、もっとパラスポーツを楽しんでもらえるよう、山陽小野田市に関わっていききたいと思っています。

市民にメッセージを

山陽小野田市には熱い人が多いと感じています。ふつふつと湧き上がる思いを、色々なところに結びつけるのが、自分自身の得意分野だと思っているので、これからも山陽小野田市に関わって、市をより熱いまちにしていききたいと思いません。応援をよろしくお願いします。

ごあいさつ

平成27年(2015年)から本市との交流を継続してきたパラサイクリング日本ナショナルチームのみなさんが、今年の夏「東京2020パラリンピック」において山陽小野田市民はもとより、日本中に多くの笑顔と感動を与えてくれました。本市では平成30年(2018年)4月に「東京2020パラリンピック」に向けた強化合宿地としての協定を締結し、何度も山陽オートレース場で厳しい練習を行う姿を見てきました。杉浦選手の2冠をはじめ藤田選手、川本選手、藤井選手の活躍は、これまでの努力の結晶であり、その重みを改めて感じることができました。

今回選手のみなさんが「東京2020パラリンピック」の報告に本市を訪問して下さった際には、実際に金メダルに触れる機会をいただきました。その重みには選手のみなさんのこれまでの努力、涙、歓喜すべてが凝縮されている気がして、今でもその時の感触が手に残っており、スポーツのすばらしさを改めて感じました。市はこれからもパラサイクリングを応援してまいりますので、市民のみなさんも2024年のパリパラリンピックに向けてパラサイクリング日本ナショナルチームのみなさんの活躍と笑顔に注目していただければと思います。

山陽小野田市長 藤田 剛二